

---

# 春冷めて

三船

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

春冷めて

### 【コード】

N7859B

### 【作者名】

三船

### 【あらすじ】

ぼんやり佇む喫茶店。目の前にいる君と。青空からの雪。

少し騒がしい喫茶店でくるくるとスプーンを回しながら、ぼんやり考える。

目の前にいる君は、黙々と目の前に重ねられている楽譜の羅列を解きほぐしている。

その仕草が小動物と淒く似ていたから、伝えようと思ったけれど、あまりの必死さを前に、ちょっと可哀想になってやめた。

視線は絶え間なく、僕ではなく紙を睨む。

もう少し時間がかかりそうだ、なんて。見切りをつけて窓を眺める。景色ではなく、それに映る僕たちをまじまじと見た。

そこには、けして若過ぎない存在していて、費やした時間が映っている様にも思えた。

不意に『苦勞したね』なんて呟けば、『苦勞したよね』なんてありきたりな言葉が返ってくる。

事実なのだから、肯定されても嫌な気はしない。

でも、それすら忘れてしまいそうになるのも事実なんだよなア…

窓から空へと目をやり、眩しい広がるの青さに何だか泣きたくな  
た。

それに気づいたのか

『君って思ってたよりも泣き虫だよね。』なんて言われてしまった。

『君も相当な泣き上戸だよ』と交わしつつも、この数分後には、小  
さな言い合いになって、君は怒りだすのだろうな。

分かっているのに喧嘩したりだとかって、物好きだよな。ほんと。

誰に言ってるのかも定かではない言葉をぽつりと零して、苛つく君  
に微笑む。

怪しげな笑みに、冷たい視線が痛いくらいに刺さってる。

窓の外は、  
いつの間にか雪。

春なのにね。どうしてかな。僕たちのためだと思えてならないよ。

轟々と唸る様な雪は、今も尚、積もり続ける。

その最中、君といる空間から見ると、青空の雪を、ただ純粹に綺麗だ  
と思った。

(後書き)

読んで下さり、嬉しい限りです！

是非とも感想などありましたら、お聞かせ頂ければ光栄です。

ここまで読んで頂き、本当にありがとうございました！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7859b/>

---

春冷めて

2010年10月11日01時50分発行